

ウェルビーイングの向上に結びつくサービスとは

利用を通じて地域全体の課題（脱炭素）の解決に貢献できる、移動の選択肢がある社会を築く、便利で快適な誰もが利用できるサービス

（上記の鉄軌道サービスの例に関連する主な発言）

○「便利な鉄軌道サービス」の例

- ・いつ電車がくるのか分かりやすいダイヤや運行情報の案内、他の交通機関への乗換えがしやすいダイヤ
- ・キャッシュレスによる決済

○「快適な鉄軌道サービス」の例

- ・待ち時間が一定範囲内に抑えられた運行頻度・運行本数
- ・朝夕のラッシュ帯の混雑緩和

○「誰もが利用できる鉄軌道サービス」の例

- ・沿線住民にとって日常使いやすく、乗りたくなる運賃体系・水準
- ・待合室、改札口などの駅施設の利便性の向上、バリアフリー化

※ 上記の内容については、カーボンニュートラル等の社会制約に対応する中で検討していくことが必要

※ ウェルビーイングの向上をもたらす鉄軌道サービスを実現するには、官民の役割分担・責任分担についても課題として考えていくことが必要

引き続き
部会において
議論を深化

第1回 地域モビリティ部会のとりまとめ

ウェルビーイングの向上に結びつくサービスとは

住みたいところに住み続けられる暮らしやすい地域を創る、参加型のモビリティサービス

(上記の地域モビリティサービスの例に関連する主な発言)

- 「住みたいところに住み続けられる暮らしやすい地域を創るモビリティサービス」の例
 - ・ 住民の生活ニーズ（子育て、医療等）を踏まえたサービス設計（他分野との連携等）
 - ・ モビリティの利用、外出等のきっかけとなる仕組み（ポイント還元等）の創出
 - ・ 自宅などから身近な場所での乗り降り
 - ・ 子どもから高齢者まで誰もが使いやすく分かりやすい決済方法や料金体系
- 「参加型のモビリティサービス」の例
 - ・ 交通事業者や行政とともに、地域住民など地元の関係者が支え手になる仕組み
 - ・ 支え手として地域に貢献していると関係者一人一人が地域との繋がりを実感できる仕組み

※ 上記の内容について精査するためには、県民等も参画した場において、住民の生活ニーズの実態・事例をもとにした議論を今後行うことが必要。

※ また、地域モビリティの確保の方法は、料金体系やその他の費用負担の仕組みなど、持続可能なモビリティとなるための仕組みとなることが必要。

引き続き
部会において
議論を深化

第1回 サービス連携高度化部会のとりのまとめ

ウェルビーイングの向上に結びつくサービスとは

シームレスで分かりやすく、住民の外出ニーズと連携できる最適なサービス

(上記の最適なサービスの例に関連する主な発言)

○「シームレスで分かりやすいサービス」の例

- ・乗継ぎダイヤ・運賃、運行状況など、県内のモビリティ情報の一元的で分かりやすい案内
- ・モビリティ間で統一された決済方法、複数モビリティの一括予約・決済
- ・複数モビリティを自由に乗り降り・乗換えるなど、何度も乗りたくなる料金体系・還元
- ・待ち時間が一定範囲内に抑えられた運行頻度・運行本数
他の交通機関への乗換えがしやすいダイヤ

○「住民の外出ニーズと連携できるサービス」の例

- ・保護者の同伴がなくても安心して利用できるサービス、外出・移動によりお得を感じられる健康管理情報の案内など、日常生活上で役立つサービス
- ・モビリティとおでかけの目的（買い物、飲食等）とが一体となったサービス
- ・地域交通の目的地となる場所や施設等の魅力向上

○「最適なサービス」の例

- ・バス運行データを活用したダイヤの最適化など、共有・オープン化されたデータを活用したサービス改善
- ・サービスの向上、業務の効率化の両者につながるデータ活用やシステム構築

引き続き
部会において
議論を深化